

## 「我が家の地震対策」についての自由意見

< 広報・無線・情報提供 > 192 件

- 地域ごとの被害予測(ハザード)マップを作成してほしい。(29)
- 正しい情報を早く伝達してほしい。(25)
- 東海地震の大事なときには、どこにいても風に関係なく、同報無線がだれにでも聞き取れるように改善してほしい。(23)
- 東海地震が発生したとき、個人の側でなく市としてどのくらいの対応がとれるのかははっきりさせていただけたらと思います。(11)
- 地震の恐怖を市民に伝え、今まで起きた地震の報道や情報提供をテレビなどで伝えてほしい。(7)
- 毎月1～2回、広報紙で地震の対策状況を知りたい。(6)
- どんな小さな情報でも伝達してください。(6)
- 断層がわかるような地図や情報が欲しい。(5)
- 東海地震に関しては新聞に毎週記事が載っていてとてもよいことだと思います。でも市としてはどうでしょうか。広報紙で紙面を1ページでも書いてください。(4)
- 予報が外れたら困るというような考え方はせず、ちゅうちょすることなく注意報・警報などはなるべく早目に出してほしい。(4)
- 避難後の水や食料はどこでもらえるのか、情報はどうやって入手するのかを、みんなにわかるように教えておいてほしい。(3)
- 非常用品チェックリストなどが広報紙に載ると(もう載ってますか?)いいと思う。(3)
- 保存板の地震対策・地震発生時の各地域の避難場所一覧などの冊子を各家庭に配布して防災意識を高める。(3)
- 各町内単位で地震に関するセミナーなどを開いてくださると、会場も近くて参加しやすく、災害時に自分がどう対処したらよいか、何が足りないかなど、見直すいい機会になると思う。大きな枠組みだと行き届かないところも、いろいろな意見が出たり、手を加えることができたりするのではないのでしょうか。(3)
- 地震対策関係の印刷物を「広報ふじ」様式で保存板として常に備えつけておき、参考になるよう配布されたい。その都度思いつきのサイズで、県の印刷物も違うので保存しない。経費のむだである。(2)
- 地震対策も必要ですが、「地震、地震...」と言ってばかりいると、不安を大きくすることもある。(2)
- 地震予知情報の毎日を常時インターネットで公表してほしい。また各分野の意見なども入れて、感じない地震があったときも教えてもらいたい。(2)
- 起震車による地震の疑似体験を実施して、多くの人に知ってもらう必要があると思う。(2)
- 家族分、避難マニュアル(子ども専用のものも交え)携帯用を配布したらいかがか。(2)
- 東海地震が発生したときどのように避難したらよいか、どのような行動をとったらよいか、地域ごとにマップみたいなものをつくって各家庭に配ったらよいと思う。(2)
- 各家庭で行える防災対策の具体例(家具の固定など)や対応方法のパンフレットがあればと思います。(2)
- 地震についての情報発信は、紙面の配布よりも、インターネットなどを利用し、本当の情報を表面的でなく、いろいろな方面から奥深く提供すべきだと思う。(2)

- 同報無線が聞き取れるかアンケートをしてほしい。
- 一番怖いのは通信手段がなくなることである。同報無線の災害時の充実を希望する。
- 行政へのお願いとして、同報無線と回覧板などでない方法をもっと考えてみたらどうですか。たとえば、民間のテレビ放送などで富士市のことを放映したらと思います。そうすればどこのチャンネルでも、同じものを放映されていれば必ず見ると思います。
- 地震対策意識を高めるためにも、地震発生時の対応策など、わかりやすい看板を随所に設置されたい。
- 東海地震の件を時々テレビで見ることがありますが、もし前からわかっておりましたら広報紙でいつテレビをやるのかを知らせてもらったらよいかと思います。
- 地震に備えてのグッズのインフォメーションをお願いします。
- 地震対策のための補助金、それに対する市民へのお知らせを、もっとわかりやすく、利用しやすくしてもらいたい。
- 地震については、これで安全であると言える絶対的な対策は無理なので、できるだけ生命を第一に守る最大限の要綱を作成して、広報紙でPRしてもらいたいと思います。
- 市は緊急物資をどこに、どれくらい保管し、管理しているのかを市民に周知すべきである。
- いつでも地震に関する現在状況がわかる場所を身近な所につくってほしいです。
- 漫画やイラストのような、だれが見てもわかるような対策をしてもらいたい。年代によって字の読める人、読めない人などさまざまありますので、その対策もお願いしたいと思います。家庭に張っておけるような(例えば「ごみの出し方」のような)物があればいいと思います。また、個人で判断できて行動がとれるようなものを絵でお願いしたい。
- 子どもなど学校における対策をもっと知らせてほしい。
- ケーブルテレビで特集をしてほしい(日時を広報紙で伝える)。
- 地震が来たとしたら本当にどうなるのか。シミュレーションビデオなどを各家に配ってほしい。
- 同報無線が聞き取れないときがある。
- 富士市で地震が起きた場合の被害予測状況を、広報紙に出す。地盤、火山層などを表示して、一番安全ではないかと思う地域、場所などを出してほしい。
- 地震が起きたときの細かい被害状況がわかるシミュレーションがあるといいと思います。それによつての対策をしないのでは、防災訓練の意味がないと思う。
- 地震対策についての優秀な意見を広報紙などに載せる。
- 本当に起こったときはどう行動していいのか、あまりよくわかりません。どの地域はここにとか、市の方で何を支給してくれるとかを詳しく書いた資料を家庭に配ってほしい。
- 予測はなかなか難しいと思うが、観測点での観測結果、状況がどうなっているのか、津波が起きた場合、どこまで逃げれば安全か(例：10mなら富士見台まで、5階まで)広報紙に防災特集のような形で載せてほしい。
- 東海地震の切迫の危機感を植えつけるためには、行政が地域単位でビデオ上映や簡単な講習を積極的に推進することが必要と思われる。
- 阪神・淡路大震災のとき、不足した物資は何か教えていただきたい。例えば老人がいる世帯、小さい子どもがいる世帯では何が必要だったか、女性の生理用ナプキンを用意していなかったと聞いたが、本当にそうなのかどうか知りたいです。あと、最低限必要な物は何か、何を個人で用意したらよいか、最低限の物を教えていただきたい(家族4人なら水はこのくらいとか)。

- 交通網、電気、水道の状況など、非常時対策がどうなっているか知らせてほしい。
- 夜間、公会堂などで地震対策についての講演会をやってほしい。
- 災害発生の当日、2日目、3日目...7日目ぐらいの細かい対策を出しておいた方がより具体的に行動できると思います(食料、けが人、復旧活動など)。もっと現実的に考えたマニュアルづくりが大切かと思います。
- このアンケートはもっと具体的なものにしてほしかった。
- そのときはそのときというあきらめムードと、どうにかなるさと楽観的な人が多い。そんな人でも災害時に一番大切なこと1・2・3位までなら頭に入ると思います。余り細かく指導されると、どれを優先すべきが一番大切なことがわかりにくくなりますので、単純な心構えを広報するとよいと思います。
- 予知できるのかどうなのか、住んでいる地域の震度及び被害状況はどうなのか、どれくらいの期間で電気・水道・電話が復旧するのか、以上のような情報を市民に提示してほしい。
- 先般の芸予地震の際に、家屋から飛び出された方がテラスの下敷きになり亡くなられてますが、このような際の対応、指導書があれば(家屋にいた方がいいのかどうか)大変参考になると思われます。
- 地震防災の最新の情報を集めた資料が欲しい。
- もし地震が起きた場合、どのくらいの規模でどのような被害が起こるのかを、常にテレビ(または広報紙にて)で私たちに教えてほしいです。
- 地震後の災害状況がわかる地図や、通行止め区間がわかる道路地図などが富士市ホームページで見られるようになっていれば助かると思います。
- 津波などの詳しい情報など知りたいと思います。富士市には津波の被害があるのか知ることができればと思います。
- 最近地震があるので、現在の状況を定期的に知らせてほしい。情報が足りないと思う。
- 住民がデマに惑わされないよう、市からの情報・誘導を望む。
- 毎日とは言わないが、週に一度くらいは予知情報をテレビなどで流してほしい。
- 最終的には一人一人が危機感を持って自己防衛するしかないと思っており、行政は過去の事例に基づいた情報提供をお願いしたいと思います。
- 各家庭に緊急用ブザーを置く(地震のときのみ)とか、何か地震予知を知らせることが必要かと思います。会社に勤めている人は警戒宣言はわかると思いますが、一般家庭に入っている人は本当に警戒宣言がわかるのでしょうか。
- テレビや新聞には情報を載せていたりするが、なかなかテレビを見る時間もないし、新聞もとっていないので、もっとそういう人たちにも情報を知ってもらえるような対策を打ってほしい。
- 学校や公民館を自家発電が十分できて、いろいろな状態を早く的確にキャッチできるようにしてもらいたい。
- 地震のとき、富士市の震度はあまり聞かないような気がします(聞き落としかもしれませんが)。三島、網代は聞き覚えがあるのですが、富士、富士宮とかはあまり...。横浜市の場合は、中区、南区...と、とても細かい地区の震度が伝えられるような気がするのですが、もう少し、細かく、震度がわかればよいのですが。
- 当市に研究機関を常設し、情報を公開すること。政府や県の情報のみで、市側の情報がないように思われる。例えば、専用電話回線を設け、リアルタイムで流す。
- 富士市などの対策本部が、災害のときに災害の状況を収集するための方法やシステムを充実させる

ことが大事である。

- 市や県でどれほど地震対策をしているのかが全くわからない。もっとPRしないとみんなには伝わらないと思う。

#### <家庭での対策> 58件

- 今回のアンケートを機に我が家の地震対策をしたい。(19)
- 家族でもっともっと話し合いをしたいと思います。(17)
- 各家庭に非常用リュックサック・防災用品を分けてほしい。(5)
- 非常用食料、飲料水などを市よりあっせんしてほしいです。主食用ご飯、飲料水の保存期間の長い物がよいです。2～3年間くらいがよいです。価格の安い方がなおよいと思います(市販では一食分で280円～350円くらいです。アルファ米を使用した場合です)。(2)
- 非常持ち出し袋の一式がセットになっている物を手軽に購入できたらいいと思います(実際に自分で用意するには知識不足なので...).(2)
- 地震対策として我が家も早くから非常食などをまとめておいたけれど、入れ替えを怠り古くなってしまっている。(2)
- 新しく借家をつくる際、非常持ち出し品を必ず設置するように義務づけるようにしてほしい。
- 税金、町内費などから市民にお金をもらい、非常用食料、飲料水などを毎年配ってもらいたい。
- 市で業者を指定して、防災用品を格安に購入できるようにされたい。
- 非常用持ち出し袋などは、市が安い値段で売ってほしい。売っている所をもっとふやしてほしい。
- 9月1日の防災訓練の前だけでなく、「防災グッズ」がいつも取りそろえられるよう販売店にも協力してもらったらどうでしょうか。
- 災害による火災多発を考えると、消防車の行動範囲はごく一部に限定されるので、火災の初期消火は、消防車に頼る前に各家庭に消火器を1個置くように義務づけては。
- 自分の身は自分で守ることを基本に考え、日常生活では整理整頓、最近、家族と地震に関する会話が多くなった。飲料水は市販されているボトルをストックしていますが、知人から水道水をボトルに入れて保管する方がよいと聞きました。その場合の保存期間ほか、水に関する知識が乏しい。
- 戦災を受けた私は、富士市の人たちののどかな生活にあこがれていたが、災害の怖さを知らないと思う。私は物置の中に3個ブリキ缶を置き、その中に非常持ち出し品を置いてある。入り口はシャッターで締めり安全と思っているが、時々点検も必要と心得ている。以前は食料、飲料ともに10日間くらいはあったが期限切れとなり、その後同じ量は準備できなくなった。息子夫婦もそんなに関心がないようで用意する気配がない。だんだん薄れていくのが怖いと思う。考えてみると私の経験した三度の戦災は防空ごうの中のブリキ缶の中身が非常にありがたかったと今でも思っている。
- 市(地域)で強制的に非常持ち出し品を各家庭に用意させるとか(有償で配布)、非常用食品、飲料水も定期的に交換する制度をつくるとかしてくれるとよい。
- 地震が発生したら水源が自動的にとまると思うが、水道がとまることをもう少しPRしたら水の大切さを知ると思います。各家に水槽タンク=300リットルぐらいの物を設備するように指導したらと思いますが。
- 防災用品(タンスのつっぱり棒とか、ガラス窓に張るシートなど)が少し高いと思われそうですので安く売ってほしい。

## < 防災意識 > 51 件

- 地震が来ると騒いで 20 年以上経過していると、気が緩みがちです。(15)
- 各家庭でもっと関心を持つように P R した方がよい。(11)
- 全体的に地震対策に無関心で、いざ地震になっても何とかなるだろうと思っている人が多い。市の方で関心を持たせるよい方法があったら市民に呼びかけて実施してほしい。(8)
- 地域の人たちが助け合わなければといつも思っている。(4)
- 東海地震が実際に起きないと、人はわからないのではないかと。そのときにとる行動などはその時点でないとわからない。
- 東海地震が発生したら、災害などをできるだけ最小限に食いとめるため、情報を入手して、適確に行動したい。
- いざとなると慌てて、なるようにしかならないと思う。自然の出来事は甘くないと思う。火災に一番気をつけたいです。
- 一番重要なのは、やはり「いつ来ても動揺しない」ための訓練や心の準備だと思います。
- 「自分のことは自分で」をモットーに、他人様には迷惑をかけないよう心がけている。救助、救護に当たる方も同じように地震に遭うのだから、当てにしてはいけない。訓練どおりに行くとは思えない。
- 小学生などを静岡県地震防災センターの見学に各学校で行かせる制度をつくる。
- 消火栓を多くして、町内での初期消火対策及び延焼防止に力を入れることにより、災害に対する意識も向上するのでは。
- やはり自分が生きているうちは地震などあり得ないと思いき、また反対に、そのときはそのときと考えているのかも(甘いと思う...)
- 市民に対する防災意識の高揚、定期的かつ実践的な防災訓練の実施、東海地震のメカニズム情報と対策、東海地震を身近なものとして考える情報の周知、防災担当者と市民の地震に対する認識の隔離対策、富士山に関する情報対策...種々課題が山積みのことと思いますが、担当者皆様のご活動により、富士市民の意識が高揚し、災害が最小限にとどまるようご指導・ご配慮をお願いいたします。
- 学校で、総合学習としてこのテーマで学習しているところも多いと思うが、子どもの意識を高くして、家庭に話題を持ち帰ることで家庭での意識も高くなりよいと思う。
- 私は南米から来ました。まだ帰化して 1 年です。日本に来てからはもう 13 年になりますが、私の国では地震がありませんでしたので、地震対策とかそういったことにはあまり関心がありませんでした。でも日本に住む以上はもっと関心を持たないといけないかと最近思っています。
- 行政に頼らず、自分、家庭は個々に守るようにする。
- 静岡県に住んでいると幼いころから「地震になれている」ようなところがあり、反対に危機感を感じない人も多いような気がします。先日、小学校で「地球が動いた日」(阪神大震災をモデルにしたアニメーション映画)鑑賞の機会を得ましたが、東海地震が起こる可能性のようなものを報道などを通して知っているにもかかわらず、防災用品などの再点検にまで行動が移らない、他のことで忙し過ぎる生活を痛感します。他人事に思っているのか、家庭を守る主婦としてはいけないことと再認識の必要を実感しています。

## < 耐震化 > 40 件

- 電話で家屋の耐震診断の勧誘があるのですが、信用できるのでしょうか。(7)

- 耐震診断を市で計画して、地区ごとにやってください。早い時期に…。(4)
- 耐震診断のやり方や費用を、広報紙で取り上げてもらいたい。(3)
- 市の方で耐震診断業者を紹介してほしい(ブロック、ガラスフィルム)。また、しているとしたら、もっとそのことについて家族そろって昼間勤務していてもわかるように情報を提供してほしい。(3)
- 道路側のブロックの高積みは非常に危険、各自で補強する必要がある。(2)
- 隣接する隣宅との境界線に、隣宅で高さ 2.4mのブロック塀を立てましたが、補強もなく危険極まりない。市の早急な行政指導をお願いしたい。(2)
- ひとり暮らし老人の家の家具の固定など、市で回って対応した方がよいと思います。
- アパートの大家さんはもっと地震対策に気を使ってほしい。
- ブロックの塀が安全かどうか、再チェックを呼びかけていただきたい。
- 市営住宅に住んでいるが、どれくらいの地震に耐えられるのか、詳しく知りたいと思っています。
- 耐震診断をいくら進めても、家を建て直したり耐震化したりするにはお金がかかります。そういう点で診断をしてもむだだと思える人が多いのではないのでしょうか。診断後の市側のフォローがもっと欲しいのですが。
- 家の耐震診断を市で行ってもらいたい。一般業者だと自分の仕事にするため、耐震性がないなど業者に有利な診断をする可能性があり信用できない。
- 家屋の耐震診断のことですが、年金生活者などにとっては、希望したくても費用の点で不安がありなかなか実行できません。広報紙などで診断のための費用や、最低限の補強の費用のことなど取り扱ってくださると、予算を立てるのに参考になると思います。
- 家具転倒防止対応は器具を配布する。取付処理も、各町内会へ技術者などを配置して強制的に処理する。
- 地震のとき最も恐れているのはガラスの破損です。それが原因で逃げおくれたりするのはと。家具の固定もこれからですが、家具の転倒は固定をすれば防止できると思いますが、ガラスのテープ張りは大変面倒で厄介な気がします。
- 家具を固定しなくてはいけないと思います。
- 我が家では、大きな家具のほとんどに、倒れてこないための“ふんばるくん”という市販のゴムでできたものを備えつけましたが、壁と直接ではないですし、上からつるしてあるわけでもないのので「大地震が来たら…」と思うと青ざめてしまいます。この間の地震も本棚などがかなり揺れました。地震が起きたり、このようなアンケートをいただいたりすると、そのときは考え直さなければと思うのですが、日ごろはつい忙しさにかまけて持ち出し品などのチェックをしていません。今回のアンケートの質問をメモにとりましたので、今度こそ我が家の地震対策をもっと真剣に考えたいと思いました。
- 危険な所があり過ぎる。通学路の安全をもっと強化してもらいたい。
- 東海地震に耐えられないような建物に危険印をつける。県営住宅は大丈夫ですか。
- 築 30 年余の持ち家です。耐震検査などを勧められますが、もし不良箇所があって直すのに大変な経費がかかることがわかれば心配です。二人暮らしですが年金生活者には日々の生活だけでいっぱいです。怖くて見てもらう勇気がわきません。
- 古い木造住宅の耐震診断費用の一部を市で援助し、100%の達成を実現させる。
- 各地域で防災診断を実施し、危険箇所の明確化と対策が欲しいと思います。

- 家屋などの耐震診断を一般住宅ばかりでなく、企業の建物も行い、その結果によっては修理などの対策を徹底させ(義務化)、その費用については一部補助も考えてほしい。
- 現在住んでいる所は、隣地と大変な高低差のある旧造成地で、地盤を囲っているコンクリート塀の強度が心配。外見上木枠板の跡、人力のコンクリート練りが見えるような気がいたします。数十年前の大雨災害でも1千万円近い被害が出ております。個人災害の場合でも補助金などを出していただけたら幸いと思います。
- 家屋の耐震については気になっていますが、借家のためどうしたらいいのかわからない。

#### <地震予知> 34件

- 予知の精度を上げて、被害を極力抑えられるよう努力してほしい。(9)
- 予知できたら住民だれでもわかるように伝えてもらいたい。(5)
- 現在の状況では予知に期待することは無理だと思います。(5)
- 今、とても気になっているのは地震発生や予知の仕組みです。どのくらい、正確な予知ができるのか、また、その情報はどこまで私たちに伝えられるのかということです。情報の伝達方法も知りたいです。(3)
- 「東海地震」は他人任せと思われませんが、「予知」が大事だと思われれます。予知ありとなしでは死者の数がかなり違います。地震計などの機器も大事ですが、昔から言われていた、例えば地下水の変化など小さいことを数集めてその変化をつかむシステムも大事。(3)
- 正しく早い予知を知らせてください。(2)
- 予知情報を公表(インターネット)する(当否関係なく)。
- 地震雲、小動物の動き、赤い月、夕焼けなど、民間人の不断の観察・報告。
- 地震が発生することが予知できたとして、本当に市民にその連絡をしますか。
- 南海地震の方が先に起こると思うから、そちらのメカニズムを知りたい。
- 東海地震の予知は、何日前に発令されるのか。
- 民間レベルによる地震予知研究団体を助成。
- 富士市独自の“地震予知”の研究に力を注いでほしいと思います。地震が起きてからでは間に合いませんからね。

#### <防災訓練> 31件

- せっかく防災訓練を行っても役員の方々ばかりで、一般の方はあまり出て来ていません。(3)
- 企業の防災訓練を行政が徹底してほしい。(3)
- 県下一斉に、企業なども含め、全体で訓練しなければ意味がないのでは。(2)
- 私はサラリーマンだが、私の職場では毎年9月1日の防災の日に防災活動を行っていないし、職場の者が地域の防災訓練に参加している話もほとんど聞いたことがない。したがって職務中に地震が起きた場合の対応が特に決まっていない。せめて9月1日の防災の日くらいは地域の全住民に訓練の参加を義務づけることが、被害を最小限にする最良の方法であると思う。(2)
- 広範囲の富士市全域の地震対策も必要だが、立地条件を踏まえて地域に添った対策を考慮し、訓練すべきだと思う。平地に住みながら山崩れの話をして感じないだろうし、海岸沿いの津波の話をして他人事になるだろうし、立地条件ごとのブロック割が必要と思う。(2)
- 防災訓練の参加要請がないときがある。

- 内容が年々簡略化されている。
- 参加しやすい工夫をお願いします。
- 防災訓練のとき、行きたくても行けない人のために何か方法を考えてほしい。
- 富士吉田市のように東海地震が起きたときを想定した訓練を大規模に行うべきだと思う。半日くらい事業所や医療施設なども参加して行くべきだと思う。今までのようにほんの一部の人しか参加しない自治訓練では甘いと思う。
- 我が家は一軒家であるため、地震などの災害時、自分たちの身や生活は自分で守ろうという意識が強い。そのため、炊き出しなどの訓練には参加していない。
- 私たちの地区では夜間訓練を行っています。いつ起きても対応できる心の準備が必要だと思います。富士地区全体で、夜間とか早朝訓練を実施した方がよいと思います。ちなみに昼間は地区全体老人が多いです。心配になります。大変だとは思いますが、地区長様、まちづくり役員、班長さんをお願いして、年に一回くらいは各家庭の非常用品のチェックをしたらいかがでしょうか。忘れたところやってくると言います。防災への関心を今一度確認するために。
- 「応急処置訓練」などを積極的に行ってほしい。
- 地震対策と言いますが、いざというときは皆さんやっぱりその驚きと戸惑いで行動がとれるでしょうか。そのためにいざというときの訓練を。
- 地震のとき、自衛隊やボランティアの人たちに協力してもらいたいが、対処をいかに早くできるかそのときを想定し、市役所で決めておいてもらいたい。赤ちゃんのおむつ、ミルク、女性の衛生用品などにすぐ役立つよう用意してもらいたい。富士市内だけでなく市外の病院にも協力してもらえよう頼んでおいてもらい、急を要するものはヘリコプターを何台も用意し搬送できるようにし、その訓練をしてもらいたい。
- 地域防災訓練がなぜ第一日曜日に決めてあるのですか。そのため、いつも参加できません。
- 地域の防災訓練を充実させるには、学校を休校にして参加できるようにするなどの対策も考えてはどうか。
- 町内単位で月一回くらいの防災活動を行ってはいかがでしょう。災害が起きれば防災活動とは違ったことが起きることは事実ですので、今一度防災とは何かを考えてみる必要があります。
- 上層部の人々の訓練だけで終わっている。市民全員参加の方法を考えるべきだ。
- 防災訓練は地域単位(町内会)ごとに実施して、名簿などもそのときに顔と照合しておくようにする。
- 地域の防災訓練のとき、専門の係の人が指導に来てほしい。
- 防災訓練にいくら参加しても、1年間間があいてしまうと、そのときやったことを忘れてしまいがちです。小さな子どもを持った家族だけでなく、体の不自由なお年寄りやその家族も同じように思っていると思うので、もっと具体的に、しつこいくらいに説明やアドバイスをしてもらいたい。
- 9月1日の自主防災訓練ですが、私たちの地区では避難場所に集合し、班の人数を数えるだけです。消火器の使い方、消火栓の使い方などは何もやりません。ただ集合するだけでは実施する意味もないなと思いつつ参加しています。
- 小学校に通う児童を持つ親として、ことし第1回の児童引き取り避難訓練がありました。毎回この引き取り訓練について危惧の念を抱くのですが、今回は特にこれを強く感じました。児童を校舎から校庭に誘導し、整列させ、町内別に児童を解散させ、各班ごとに来校してくる親が我が子を引き取り、係の指示に従って引き取る過程にかかる時間が非常に長く、親の私語が多く先生方の話がほとんど聞こえないといった情けない状況にありました。児童引き取り訓練が手順よく迅速に行われ



るための各校のマニュアルがあると思うのですが、全体として訓練だという気楽さのためなのか、だらけた雰囲気のプロたちには失望しました。親たちの意識が低くでは実際に地震が起こったとき、混乱が生じるのではないかと思います。また、親の手元に児童が引き渡されるまでの時間が、校庭の所定の場所で待つ親にとって長いため、より気が緩むのではないかと思います。一度でも気を引き締めた真剣な訓練をしなければ、阪神・淡路大震災の悲劇が「東海地震」で繰り返されることになるのでは…。人災といった形で。

#### < 避難 > 25 件

- 各地の避難場所がわからないので、電柱とか信号機の柱、学校などに、避難場所の看板を取りつけてほしいです。(3)
- 家族が地震発生時、自宅まで帰る足が確保できるか不安である。(3)
- 障害を持った人たちの避難の方法、場所などを考えてほしい。(2)
- 避難生活がどうなるか不安。(2)
- 田子に住んでいるので、津波が一番怖いです。 集合場所に集まって間に合うのでしょうか。新富士駅のホームに上がれば大丈夫と聞きましたが正しいのでしょうか。
- 以前住んでいた所は製紙工場の近くで、富士には大きな工場が多く、地震が起きたらどうなるのかな、きっと大爆発をしてしまうのではとても不安でした。どう避難するのかななどの細かなことが何も無いのはおかしいのではないのでしょうか。
- 城山地区では避難場所が少ない。
- 地震があったときにどこに集合したらいいのかわからないので(引っ越してきたため)詳しく知りたい。
- 訓練では遠い公会堂へまず連れて行かれました。小学生も中学生も地域の住民も、みんな公会堂へ集まることになっていますが、公会堂はそんなに大きくありません。学校に集まるのがベストのような気がします。我が家は公会堂に避難するより小学校に避難した方が近いです。
- 自分みたいに未婚でひとり暮らしの人が、地震発生後に違う地区(例えば会社の同僚や友人の住んでいる地域に)に避難していいのか。避難場所は住所の決められた地区に必ず限定されるのかどうかわからない。避難後の自分のアパート管理は自分ですか、あるいは大家さんがするのかよくわからない。
- 防災訓練の集合場所の方が、家よりはるかに古く心配です。学校も何年もたっていますが、避難して実際大丈夫なのでしょうか。
- 避難先までの道路が遮断されていないかどうか不安がある。
- トイレの確保、清潔さ維持に不安がある。
- 町内の避難場所は高台にありまして、高齢者には無理かと思われ。近所の方とよく連絡して、対処していきたいと思っております。
- 東海地震が実際に起きたら怖いのは皆わかっているだろうが、自分の住んでいる場所の(地域の)避難場所や集合場所の携帯用の地図みたいなものがあれば便利だと思う(テレカくらいの大きさ)。
- 現在、防災避難集合所と駐車場が共用されていますが、水のタンク上と防災倉庫建物前は、常に利用者の車が駐車されている現状があります(違反駐車)。また、神社の土地で建物も古いので、崩れる危険も考えられます。昔の古い大木が立ち、強風などで枝が折れて通路に落下しています。危険が予知されますので、市役所で改善の見直しをしてほしい(公園地と神社地含む)。

- 子どもが3人いるので、それぞれがどうやって帰ってくるのか心配。
- 避難場所は本当に安全なのだろうか。
- 一次避難、二次避難と場所を決めないと、一次避難場所が危険になったら次の行動がわからない。

### < 自主防災 > 23 件

- コミュニティーの崩壊は深刻である。自主防災活動も全く形骸化している。(4)
- 自主防災の日の町内訓練は、消火器消火のみで終わりにしてしまうという状況だ。町内自主防災会が町内の老人、子ども、弱者の点呼など訓練を細かくやることで、安全も町内会運営もうまくいくと思う。(2)
- 住民が集まりやすい方法(目玉的イベント)を役員会で考えていかないと徐々に減少すると思う。
- 一人一人がもう少し個々の責任を持って自主防災に参加すべきだと思います。
- 自主防災ごとに今泉公民館経由にて松原川土手の心配のことを記して報告しておりますが、どうなっているのでしょうか。
- 全市民が参加できる防災会など、方法を考え出してもらいたい。
- 自主防災活動の日時をできるだけ日曜、祭日にしてほしい。平日では参加したくても参加できない場合が多い。
- 自主防災活動を、区長なり地域の役員が、もう少し地域住民へPRすることが必要だと思います。
- 私たちの町内はそれぞれの役割を決めていますが、昼間はほとんど勤めに出ている。男性が留守の家ばかりなので、一番大切なのは最初火の元につけること、話し合うことだと思います。
- 地域の自主防災会の活動ですが、自分たちが最低限知っておくべき基礎的な訓練を、統一化して指導してほしいと思います。私たちの地域はいつも同じで消火訓練だけです。それでいいのかといつも思いますが...私の住んでいる地区は下横割南区です。
- 防災(活動)の日を本当に地域全体で活動したいと思っているのなら、9月1日ではなく9月の第1日曜日など、住民が参加できる日に移していただきたい。
- 地域での取り組むべき対策が不明です。
- 9月1日の防災の日には全市民が何らかの形で防災活動に参加するよう呼びかけることが必要。また、家庭に残っている人たちだけでなく会社、事業所も地域の町内会と連携していけるよう話し合いの場を設ける必要があると思う。
- 市が地域の自主防災を区長に指導してもらいたい。9月1日の防災の日の参加の話も全然ない。
- 先日、地区の防災組織の名簿が回覧で回ってきました。救護班に主人の名前が載っていましたが、主人は医師で市で指定された場所へ行かなくてはならないので、区の救護班としては働けないことを班長さんに申しましたところ、「これはただ名前を載せてあるだけ、実際地震が起こったら皆自分たちのことだけで手いっぱいだと思うよ。防災訓練といっても、暇なじいさん、ばあさん連中しか出てこないし」ということでした。私は、自分や子どもはやはり自分自身で守るしかないと思いました。
- 自主防災会は町内会の班長がメンバーになっている所が多いと思う。班長は高齢者で占められ、体力、行動力に乏しく、みんなそれぞれ仕事と家庭を持っているので、いざというとき、地域の救助活動に参加できるかどうか疑問だ。消防団や自衛隊などの出動があるまで、市民は自分のことは自分で身を守らなければならないと覚悟すべきである。したがって自主防災の各メンバーは、自分の任務分担として、自分の役割区域内のひとり暮らしの老人や母子家庭など巡回して、必要があれば

応援を頼むなど、できる範囲での活動をするよう明確な指導をお願いしたい。

- 東海地震の被害は一町内、一地区、一市町村だけではないので、自主防災会相互間の助け合い活動についても指導する必要があると思う。
- リーダーの指導力により各自主防組織の活動状況に格差がある。各単位組織の相互啓発による組織のレベルアップを促進するため、ブロックごとの連合組織を検討すべきではないでしょうか。
- 自治会の防災用品の充実、防災倉庫が小さいなどの不安がある。

#### <富士山> 22件

- 東海地震よりも富士山の噴火の方が関心がある。(6)
- 富士山の低周波地震が非常に怖く思います。(3)
- 富士山の状態が知りたい。毎日でもテレビでやってほしい。(2)
- 富士山と東海地震はとても関係があると思います。そういう情報も教えてほしい。(2)
- 富士山噴火時のハザードマップや避難ルートがわかるような対策も検討公布していただきたい。(2)
- もし富士山が噴火したらどのようになってしまうのか詳しく知りたい。どれくらいの噴火で、どのあたりがどのくらいの被害に遭うのかなど詳しく知りたい。(2)
- 東海地震もそうですが、先に富士山が噴火するような気がします。富士市はどのような対策をしているのでしょうか。
- 私たちのときは学校で富士山は休火山と言っていましたが、休火山では油断できません。新聞に毎日のように書かれています。非常によいことと思います。
- 噴火したら富士市のどの地区にどのような被害が予想されるのか、避難方法は、どこへどう逃げたらいいか...このような情報を各地区に(富士市といっても広いので、住んでいる所によって、被害も違うと思うので)具体的に知らせてほしいと思う。
- 最近、富士山低周波地震が活発なようですが、地元富士市ではあまり話題にならないようです。広報紙などに取り上げていただきたいと思います。
- 富士山が噴火した場合、森林墓園はどうなるのでしょうか。

#### <その他> 61件

- 住宅密集地は道路幅を広くするなど、道路を整備してほしい。(7)
- ひとり暮らし老人や体の不自由な人たちはどうしたらいいでしょうか。(5)
- ペットのための対策を考えてほしい。(3)
- 地域防災活動と企業防災の結びつきがないように思う。いざ地震というとき、勤務時間内なら企業防災に専念する役割を持つ人は少ない。家庭と企業のどちらを優先するか本当に悩むであろう。(3)
- 私たちの地域は工業地帯のため、大きな地震や津波が来たとき心配です。(2)
- 中小の製紙工場には、工場内のはりなどに紙粉がたまっていて、そこに火がつけば消火活動はできなくなる。また、原料として板状パルプ、圧縮された段ボールに火がつけば、消火活動にたくさんの方が必要になる。紙の街とは言っているものの、いったん火がつけば、消火活動ができなくなる。
- 寺市場町には、耐震性の貯水槽兼防火水槽が必要です。
- 老朽化した家屋に住み、経済的にも安心して暮らせる住居が確保できない状態です。地震対策は各

自が毎回意識下におくことから始まると思います。自治体任せではいけないと思います。

- 親類が身近にしかいないので不安です。
- 会社での震災対策を徹底してほしい。
- 「東海地震」と不安をあおるが、現在まで大きなものは起きていない。予知の設備に多額の費用をかけているが、時々起きる小さな地震すら予知できず。その間に神戸や中国地方で大きな地震があることを行政は考えたことがあるのか。おそらく予知は難しいものだからもうやめて、起こった後のことを中心に考えるべきである。復興基金などの準備は万全ではないと思う。
- 実際、地震が来たときにならなければ、自分がどのような行動をとるのが一番よいのかなどはわからないと思います。子どもが保育園に行っているときだったらとか、不安になることはたくさんあります。会社はどうなるのだろうか...。地震の場合、公共の施設のどこがどのような機能を持ち、対応してくれるのが事前にわかっているとありがたいです。病院(個人)などでも休診にしてしまうのか、対応してくれるのか、スーパーなども営業はどうするのかのマニュアルがわかっているれば、警戒宣言が出てもすぐに対応できると思います。そのようなマップがあると便利では。
- 民間レベルでの地震発生後の救援活動の充実を。
- 町内の役員などだけでなく市の職員の方々も、点検、見回りなどをしたらどうでしょうか。私たちにはわからない地域の現状など、年がたつにつれ変化していると思います(地盤など)。
- 海と富士山(山)に挟まれている富士市ですから、地震による後の被害も大きくなると思います。富士川の断層を含めいろいろなことが考えられるので、対策が必要だと思います。
- 飲料水を地下に頼る富士市は、場合によっては湯水の所が出ることを考慮すべきでは。
- 富士市は平地・山間地とあり、地震災害時、消防車は平地の一部でしか使用できず、家屋の倒壊で通行不可が多くなると...山間部にある古い住宅は倒壊が当然起こるものと考え、そこからの火災は山林を焼くものと考え、特に山間地の住宅周辺は延焼しにくい状況を考慮すべきと考えます。方法は種々あります。
- 各避難場所から本部への報告及び状況を確実に速やかにするタイミングは現実的かどうか。
- 地震が起きたら必ず火災が発生します。けが人が出ます。ライフラインがとまります。市はすぐに県・国に連絡し、自衛隊の援助を受けること。3時間以内に。連絡に何時間もかかっていたのでは、自分のことは自分たちでとなるので地域重視なのかとも思う。今までの大地震の経験は何一つ生かされていなかったことになると思います。また、ボランティアにも連絡して、すぐに対応できる用意しておくことが大事だと思います。私はこれから用意します。
- 市にはもっと身近な問題に取り組んでいただきたい。交通事故や治安など早急に取り組むべき問題があるのではないか。
- 消極的な意見で申し訳ないが、災害が来て死んでしまっても、それはしょうがないなあって考える人が世の中にはいるんじゃないのかなあ。年寄りなら自分の家で死ぬなら本望。リストラにあった人なら明日の災害より、きょうの生活。子どもが言うことを聞かないで困っている家、介護の必要な老人をかかえている家、守ってあげたい人とか、守っていききたい人生などがない人々は、地震対策なんてきっとあんまり力をいれないよ...となると、地震対策の前に失業対策とか教育問題とか福祉問題とか etc...考えて明るい未来があればこそ、明日の命をそして地震対策についても真剣になろうってということもあるかもね。
- 本当に必要なことを最小限の費用で実施する工夫がもっとあってもよいと感じています。
- 9月1日は日本全国休日にする。

- 危険性が高い富士市で長い間言われ続けてきた東海大地震について、市や県や国はどのような準備や想定をしているのでしょうか。余計なものにお金を使ってばかりいないで、あいている土地を市や県で買い取り、そこに地下シェルターや食料・飲料水、最低の自家発電装置など。急な病気や出産などいつ起こるかわかりません。そのときにスムーズに別の場所に移せるのか。連絡はとれるのか。国はすぐに動いてくれるのか。家が崩れたときはどうなるのか。阪神・淡路大震災のときは家は崩してもブロック塀は崩さないとかとても意地の悪いことを国はしていたけれど…。不安は山のように出てきます。子どもが小さければ倍になって、自分だけならとか、大人だけなら何とかなるし、体の動く人はボランティアの人たちにやらせるばかりではなく自分から動けばいいし…。どうしても避難生活が長いとわがままになったり、悲劇のヒロインになったりするけど、みんなで力を合わせて頑張らなければ。そのために国・県・市にはリーダーとして頑張ってもらわないと。デスクワークばかりでいざというときに動けないと困ります。
- 地震に備えるために税金を使うのは大いに結構。人の命を守るのは行政の仕事です。
- 地震発生後の住宅改修費用の補助制度の確立、また市内建設業者の地区別の割当(特に大工さん)の確立。それに伴う木材の確保など、再建に要する建築資材の事前にストックしておくシステムの確立をしておく必要があるのではないかと思います。
- 阪神での地震を経験しました。これによりすべての価値観が一変されました。特にボランティア受け入れの基礎をしっかりとつくっておく必要があると思います。
- 静岡県地震防災センターのPRと活用を望む。
- 私は消防団に42年間おりました。福井地震とかほかの地震の視察報告を聞いたことも何度かあります。話を聞くと道路が分断され、消防車は動けなくなるようですから、当時から軽四輪に可搬ポンプ積載の4WDの車種を署団に配備することを申し上げたことがありますが、いまだにそんな話は聞いたことはありません。立派な消防防災庁舎はでき上がりましたが、箱物より地震には軽自動車の方が有効とっております。
- 地域に密着した発生後のマニュアルがあると安心。
- 富士常葉大学を活用すべきだ。
- 津波対策は大丈夫なのか。
- 火災も大きな課題だと思うので防災対策の徹底をさせてほしい。例えば消防車などの増車、消火栓の増数(うちの近所には消火栓の数がほとんどなく、あってもすぐ開けられない、またはホースなどの設備がなく使えない)。また断水したら水が出ないのでは困るので、耐震水道管(浄水場 神戸では放水用に水がなく、海から水を取ったりしていたから。また家屋の被害は倒壊より火災の方が多いと思われ、死者も火災が最終的原因だったのでなかったでしょうか)の設置を進めてほしい(防災的にも飲料水の確保のためにもぜひやってほしい)。
- 地震の予知など不確定なものに金を使うより、地震が起きた後の対策にお金を使ってほしい。
- 助かるかどうかわからない事前策より、生き残った者への金の支給の方がよほどうれしい。
- 富士山付近の低周波地震活動の報道をテレビ・新聞で知り、我が市にはヘリポートはあるのだろうかと思いました。地震で道路がだめなときは、空しかないように思われます。まず第一に救助、救護、医薬品の運搬などが必要だと考えます。富士市独自のヘリコプターとヘリポートを望みます。
- 静岡県は地震が起こりやすいということで、地震保険の制度が厳しい。もっと安い額で加入できるように見直してもらいたい。
- 東海地震が発生する危険が出たなら、地震が発生する前に自衛隊に災害派遣の要請をする。

- 富士市は工業地帯なので、危険物も多いだろうからその安全性もチェックする。大災害発生時の条例や法律をつくっておく。
- 住居付近の土地の状態について、相談できる所があったら知りたいと思います。
- 他の地震が起きたり、起きそうだったりする地域との協力体制を強化すべきだと考えます。
- 堤防は高波が何mまでもつか。田子浦地区は海拔何mか。3mぐらい掘れば水が出ると聞いたが、本当ですか。
- 一般電話が使用不能の場合に備え、公衆電話の設置台数をふやしてはどうかと思います。
- 非常用食料と水は、各地域の公民館、学校へ保管する。
- うち6人家族で、うち2人がライフライン関係の仕事です。家の者の安否が一番気になる場所ですが、会社に行っているとき地震になったら、おそらく2人とも帰って来られない立場です。防災の日も毎年、会社のアマ無線部として情報訓練に参加しています。実際に災害が起きたときのことは全く予想できず、とても不安なのは事実です。ライフラインを守れても、自分の家族を守れないのは一番つらいですね。
- 現在行われている災害対策には、一つ大きな盲点があるように思います。それは下水道が破壊されたときの衛生対策と、復旧対策について何も言われていないことです。これは疫病のまん延を防ぐため。